

「令和元年度 第1回かながわ次世代エネルギーシステム普及推進協議会」議事要旨

1 開催日時・会場

令和2年1月28日(火) 14:00~16:15 横浜情報文化センター 大会議室

2 傍聴者・報道

なし

3 要旨

(1) 挨拶【神奈川県(産業労働局長兼エネルギー担当局長)】

- ・ 本日は、次世代エネルギーシステム関連の企業の皆様、最新の知見をお持ちの学識者の皆様、経済産業省の方をはじめとする各行政機関の皆様にご集まっておき、情報交換をする非常によい機会であると考えている。
- ・ 世の中の動きを見ていくと、今年は、東京オリンピック・パラリンピックにおいて、水素に関してショーケース化していき、国内外に発信していこうという動きがある。
- ・ 昨年の台風の際には東京電力やメーカーの方々の協力をいただき、電動車を使っていくという動きもあり、次世代自動車というものに対する有用性を改めて再認識したものかと思う。
- ・ こういうタイミングで関係者と情報交換をできるのは大変、有意義であると考えている。

(2) 議題

○ 議題1 協議会設置要綱等の改正について

(資料1-1、1-2、1-3、1-4、1-5、1-6)

《協議会設置要綱等の改正について》

- ・ 事務局から「資料1-1」～「資料1-6」に沿って説明し、了承。

○ 議題2 水素エネルギーの普及促進について(資料2-1、2-2)

《水素社会実現に向けた経済産業省の取組について》

- ・ 資源エネルギー庁から資料2-1に沿って、説明。

(主なコメント)

【内田氏】

- ・ この場合は、以前、水素勉強会と称して、行政と産業界が集まって、直接、問題を行政側にも知ってもらおうということで始めたもの。
- ・ 国際水素エネルギー協会を通して各国の水素の動きをやりとりしている中で、私が一つ心配しているのは、産業競争力を強化するということが大事なのは分かるが、中国とか欧州がものすごい速度で追いかけてきている。韓国もFCVの生産台数は、日本を超えている。このような状況の中で、速度を上げていかないと大丈夫かなと心配だがその辺りはどうか。

⇒ 【資源エネルギー庁】

- ・ そういった状況も踏まえ、昨年策定させていただいた「水素・燃料電池戦略ロードマップ」等に基づき、競争領域と強調領域を意識しつつ、引き続き技術開発等を推進していく。

⇒ 【内田氏】

- ・ 今年7月に世界水素エネルギー会議が開催される。こういったところに、NEDOも出てきて、成果をアピールしてくれることを期待している。

《東芝の水素社会に向けた取組について》

- ・ 東芝エネルギーシステムズから資料2-2に沿って、説明。

【神奈川県説明】

- ・ 「神奈川の水素社会実現ロードマップ」について意見を伺いたい。
- ・ 前回、平成30年4月の本協議会において、国の水素・燃料電池ロードマップの改定内容を十分加味しながら見直しを検討していくこととしていた。
- ・ その後、国のロードマップが新たに策定されたが、内容は基礎技術のスペックやコスト低減の目標を設定するものが中心で、県のロードマップに反映させるべき項目は少なかったと受け止めている。
- ・ そのため、今年のオリンピック・パラリンピックの動きを踏まえ、また自動車業界の動きやその他の技術の動きを見定めながら、ロードマップの見直しについては、もう少し先にさせていただきたいと考えているが、意見はあるか。

⇒ 発言なし

- ・ 令和3年度以降に見直し作業を進めていくという形にする。

○ 議題3 電気自動車（EV）の普及促進について（資料3-1、3-2、3-3）

《EV電池を活用した中古ビジネス構築の取組み》

- ・ フォーアールエナジーから資料3-1に沿って、説明。

《蓄電池としてのEVの活用について》

- ・ 日産自動車から資料3-2に沿って、説明。

《台風 15 号での活動を踏まえた電動車の活用促進》

- ・ 東京電力パワーグリッドから資料 3-3 に沿って、説明。

○ 議題 4 情報・意見交換（資料 4-1、4-2、4-3、4-4、4-5）

《各自治体の水素関連の取組について》

- ・ 県、横浜市、川崎市、相模原市説明から資料 4-1、4-2、4-3、4-4 に基づき、説明。

(主なコメント)

【経済産業省自動車課】

- ・ 電動車の普及を担当している。2030 年の販売目標があるが、足元の普及状況を見るとまだまだ道半ばである。
- ・ 企業や自治体と一緒に電動車の普及に取り組むという趣旨で、電動車活用社会推進協議会を昨年 7 月に立ち上げた。そこで主にテーマとなっているのが、エネルギーインフラとしての車の価値であり、例えば、リユースバッテリーの活用や B C P における電動車の活用などについて、この協議会で議論をしているところである。具体的には、まだ立ち上げたばかりなので、企業や自治体の事例の紹介をしてもらいながら課題を共有し、その課題を解決するための議論をこれから深掘りしていければと考えている。
- ・ 本日、たくさん発表があった電動車の災害時の活用に関し、経済産業省では電動車の活用マニュアルを作っており、協議会の HP にベータ版を掲載している。千葉の停電を踏まえて、電動車から給電できるということをたくさんの方に知ってもらったが、このマニュアルでは、それをさらに普及啓発するという観点で、例えば、電動車の給電機能や給電能力の分かりやすい説明や自家発電、電動車、電源車といったいろいろな電力供給源の特徴を整理したものを紹介している。ベータ版としての公開であり、これからブラッシュアップしていくが、こうした内容もこの協議会の中で議論していくので、参画していない企業、自治体の方は、電動車活用社会推進協議会の HP で、活動内容を見ていただき、関心を持った方にはぜひ、ご参画いただきたい。
- ・ 電動車の普及に向けて、官民連携で取り組んでいきたいので、引き続きご協力いただければと思う。

【三菱自動車】

- ・ 資料に沿って説明。(電動車両 普及に向けた取り組み事例)

【トヨタ自動車】

- ・ 資料に沿って説明。(M I R A I の次期モデル)

【原田氏】

- ・ 昨年の災害が肌身に感じるものであったと思う。再エネ、水素が今後より重要になってくると思う。

- ・ 海外では、燃料電池の大型化がトレンドとしてある。港湾のタグボートや大陸横断バスなども燃料電池。欧州では、電化率が高くないため、ディーゼルに代わって燃料電池の機関車にするなどの取組も行われている。
- ・ 自治体にも協力いただきながら、そういったところにも力が注げたらと思う。

【内田氏】

- ・ 神奈川県は日本国内としては唯一、SDGsをベースにしている自治体であり、各局でもどの分野を重点的に行っていくか、総合計画審議会を中心に検討しながら、全庁挙げて取り組んでいるところ。
- ・ 水素がないと、SDGsの社会に移行できないと思う。環境問題をしっかりと捉えた上で、ビジネスをやっていないと、動かないところに来ている。神奈川県は、SDGsを中心に本格的に動いている。11月下旬には、知事が国連で大きな会合に出席することとなっており、日本政府がもう少し水素を意識して進めてもらえたらいいと思う。
- ・ 川崎で、昭和電工において廃プラから水素を製造し、東急REIホテルの電気として活用するといった取組が始まっている。少し前までは、日本の技術はトップクラスであったが、ここに来て、中国や欧州がもの凄い勢いで出てきている。環境というところに意識をおいて、スピードを上げていかなければならないという危機感を持っている。
- ・ この協議会は、産業界から行政側にいろいろな意見を出していただける場所として設定しているので、ぜひ遠慮せず、発言いただき、協議会を活用いただければと思う。

○ 議題5 その他

《事務局説明》

- ・ 本日の議事録については、後日、照会するのでご協力いただきたい。

以上